

TEPCO インターカレッジ選手権-非家族と暮らす住宅-
私と彼らのモノと場所

例えば一人旅で大きな一室を共有するドミトリーに宿泊し非家族の彼らと生活を共にすることがある。そうした時私たちは大きなバックパックとそこに潜んでいた小さな物の配置によって自分の場所をつくる。それは自己の領域の主張であると同時に、置かれた物はそれまでの彼の旅を物語り、その経験を私たちに享受させてくれる。それは非家族の間に弱い繋がりをもたらす。

現代の住宅を概観すると、壁で囲まれた部屋の内側に物が溢れかえっている。しかし所有者の彼を物語ることはない。そこで彼らとの暮らしの中で”私と彼の距離”を自由につくることができ、両者の間に弱い繋がりをもたせることができるような『物によって分節される家』を提案する。

3つのチューブ状の部屋が想定されたワンルームの空間に私は2人の非家族と暮らす。物が増えるほどに、建築の外形に沿って明確に規定されていくチューブ状の空間は、その2つのチューブが反りあう形で配置されることで、私と彼の間に即物的な距離関係をつくりだす。(fig.1)

私は積極的に彼との距離が近づく場所と、遠ざける場所をつくるように、所有している物を配置する。彼の生活は私の生活の風景として取り込まれ、逆に私の生活は彼の風景の中に取り込まれ、細長い空間の中に様々なシーンが現れる。私が置いた美しい輪の花は彼らの生活に少しだけ幸せを与えることができるし、彼の奏でるピアノの音は、私に今日の終わりを予告する。こうした即物的距離とその間に置かれる物によって、彼との距離はつくられる。

私の部屋の物は、彼らの部屋に影響を受けて配置され、またその配置によって彼らに影響を与えるといった相互作用を引き起こす連鎖の中で、彼らとの弱い繋がりダイレクトに空間に現れる。

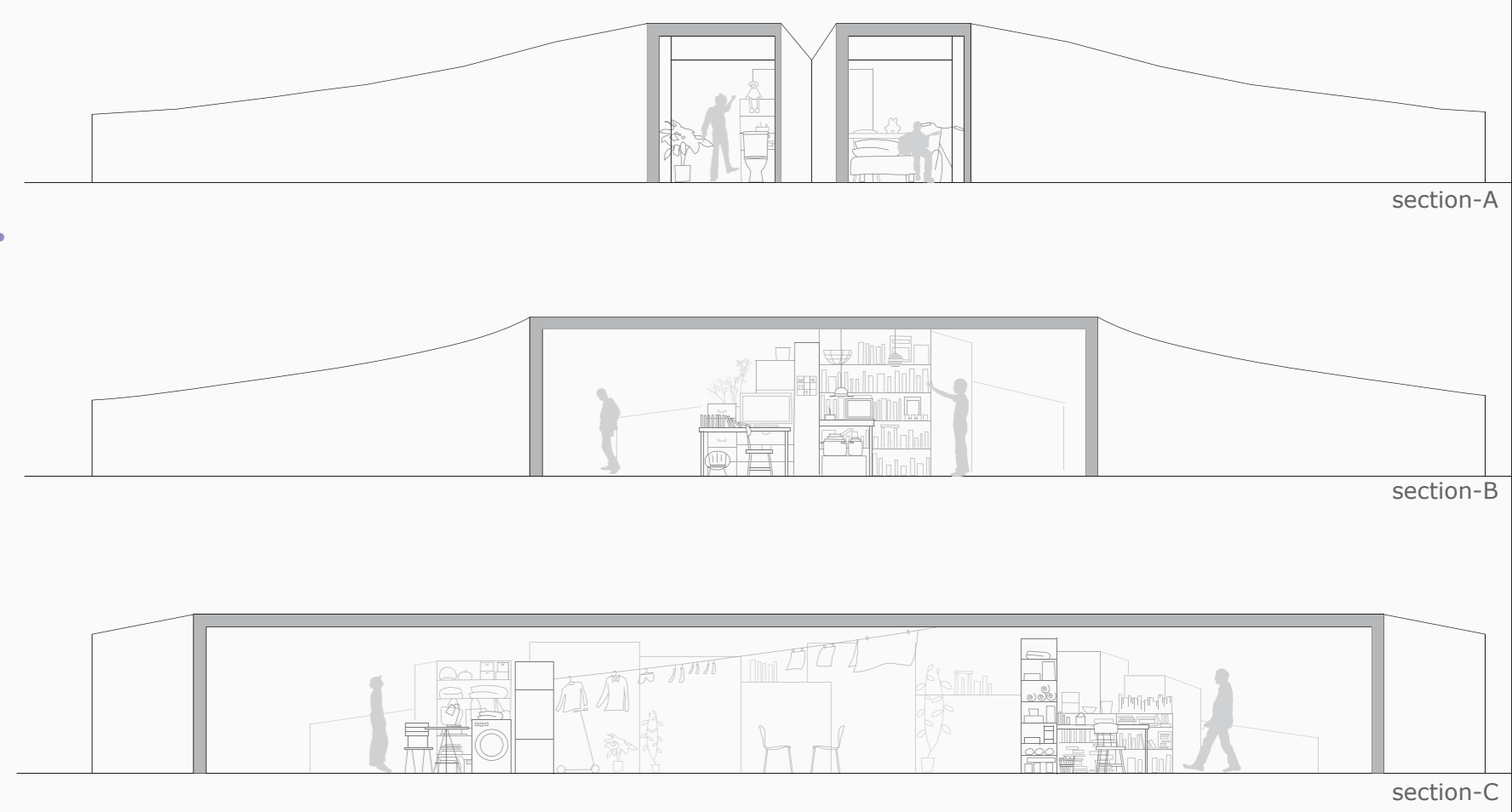


fig.2 一物の密度と空間分節

● Aの物 ● Bの物 ● Cの物

